

平成 24 年度事業報告

自 平成 24 年 9 月 3 日
至 平成 25 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

① 常置委員会活動

1. 総務委員会	(3)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(6)
6. 専門医制度委員会	(7)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(13)
11. 腎不全総合対策委員会	(13)
12. 危機管理委員会	(14)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(14)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(15)
(2) 監事	(15)
(3) 評議員	(16)
(4) 退任した役員等	(21)
(5) 役員等の報酬等	(22)

② 会員に関する事項

	(22)
--	------

③ 職員に関する事項

	(22)
--	------

④ 役員会等に関する事項

	(22)
--	------

⑤ 許可、認可、承認等に関する事項

	(26)
--	------

⑥ 重要な契約に関する事項

	(26)
--	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(27)
2. その他の記載事項	(27)

I. 当法人の事業の状況

① 常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 通常総会

平成24年11月18日(日)11:00~12:15 千代田区平河町2-4-1都市センターホテル コスモスホールにおいて、一般社団法人に移行後初めての通常総会を開催し、定款第28条に基づき、総会の議決により出席評議員の草野英二評議員が議長を務めた。理事及び監事の全員が本総会終結時に辞任するため、定款第13条及び新役員選挙要綱第7項に基づき、理事候補者の投票を10名連記で行った結果、得票数の多い者から上位20名を当選とし、総会に諮り、満場一致で承認された。引き続き、新役員選挙要綱第10項に基づき、監事候補者の投票を単記無記名で行った結果、得票数の多い者から上位3名を当選とし、総会に諮り、満場一致で承認された。各常置委員長から平成24年度(4月1日~9月2日)社団法人事業報告及び社団法人収支決算の説明があり、満場一致で承認された。また、平成24年度(9月3日~3月31日)一般社団法人予算案及び事業計画案の詳細な報告があった。監事から、平成24年度(4月1日~9月2日)社団法人事業報告、収支計算書及び財産目録等について、監査した結果が法令及び定款に照らして正当であるとの報告があり、総会に諮り、満場一致で承認された。

2) 役員会に関する件

常任理事会：前役員 平成24年10月5日(金)

新役員 12月28日(金)、平成25年3月15日(金)

理事会：前役員 平成24年10月5日(金)、11月18日(日)

新役員 11月18日(日)、12月28日(金)、平成25年3月15日(金)

監査会：前役員 平成24年10月23日(火)

3) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

4) 小委員会

(1) HP・電算機小委員会

① 学会活動ならびに関連情報の公開・更新を行った。

1. 学術集会・総会等最新の学会情報を逐次掲載した。
2. 事業報告、事業計画、財務資料を逐次公開した。
3. 文部科学省、厚生労働省、関係省庁・関連団体からの通知を逐次掲載した。
4. 医療機器、医薬品の回収等、医療安全情報を逐次掲載した。
5. その他、会員関連情報を逐次掲載した。

② 各種委員会、小委員会、ワーキンググループ活動内容を積極的にHPに掲載した。

1. 最新の学会誌(日本透析医学会雑誌、Therapeutic Apheresis and Dialysis)の情報を掲載した。
2. 専門医制度関連の情報を逐次更新した。
3. 各種委員会からのお知らせを掲載した。
4. 「血液透析患者の糖尿病治療ガイド」を掲載した。

③ 会員専用ページの内容の充実を図る。

施設検索機能の改善に着手した。

④ 透析について広く一般に周知する目的で、HPの一般向けコーナー設置について検討を始めた。

⑤ 電子投稿システムをリニューアルした。

- (2) 腎不全（看護師・腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師・栄養管理士）認定・育成に関する小委員会
 - 1. 日本腎臓病薬物療法学会専門・認定薬剤師制度に関する合同会議（平成 25 年 1 月 26 日）
（日本透析医学会，日本腎臓学会，日本腎臓病薬物療法学会）
 - 2. 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキストの査読を行った。
 - (3) 感染調査小委員会
特に感染調査小委員会を開催して検討を要する問題点はなく，感染症関連のガイドラインやマニュアル作成への参加もなかった。
 - (4) 法人問題検討小委員会
一般社団法人に移行後，検討を要する問題点はなかった。
 - (5) 男女共同参画推進小委員会
第 58 回学術集会に委員会企画を立案した。
- 5) 学会との連絡，協力関係
- 日本医学会（評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員）
 - 日本慢性腎臓病協議会（CKD）対策協議会
 - 透析療法合同専門委員会（日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会）
 - 日本透析医学会，日本透析医会連絡協議会
 - 内科系学会社会保険連合
 - 臓器移植関連学会協議会
 - 末期腎不全治療説明用小冊子作成
 - 糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会）
 - 日本専門医制評価・認定機構
 - 登録腎生検予後調査検討委員会
 - 病期腎移植専門委員会
 - 日本腎臓財団，日本臓器移植ネットワーク等
- 感染対策・災害対策・学術交流などに関し，積極的に連携協力をすすめている。

2. 財務委員会

平成 24 年度事業として，日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。

本学会は，平成 24 年 9 月 3 日付けで一般社団法人（新法人）への移行認可を受けた関係から平成 24 年度決算は，新法人移行前の平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 2 日までの期間で一度決算を行い，新法人移行後の平成 24 年 9 月 3 日～平成 25 年 3 月 31 日までの期間で再度決算を行った。またこれは，新法人移行に伴って，「平成 16 年改正基準」（平成 16 年 10 月 14 日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申し合わせ）に基づく会計処理から「平成 20 年基準」（平成 20 年 4 月 11 日，平成 21 年 10 月 16 日改正，内閣府公益認定等委員会）に基づく会計処理への変更により行った。これに伴い，新法人の平成 24 年度予算・決算は，収支ベースから事業別，資産ベースへと変更された。その結果，平成 24 年度新法人決算による資産状況は，学術雑誌発行事業にかかる広告掲載料収益等の未収および繰入金減等により資産合計は減になったものの，負債合計も減になったことから正味財産期末残高合計は，ほぼ横這いに近い状況になった。

また，内閣総理大臣宛に新法人として公益目的支出計画を策定，提出し，その承認を得たので，今後共，事業別損益の的確な把握に基づく健全な会計処理を継続し，公益目的支出計画に沿って財務面から本学会活動を支援していきたい。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月1冊、2012年9月から2013年3月までに7冊発行した。

発行部数は月平均15,500部であった。

・2012年9月3日～2013年3月31日の投稿数、掲載数

論文投稿数54編、受理数32編、掲載された投稿論文36編（内訳：原著23編、症例報告8編、その他5編）。採択率は約60%であった。

その他、第57回学術集会講演からの依頼論文9編、委員会報告4編、ガイドライン1編を掲載し、投稿論文を含め合計50編を掲載した。

・電子ジャーナル

引き続き科学技術振興機構（JST）のJ-STAGEにて和文誌の電子ジャーナルを公開した。

電子ジャーナル化小委員会については、電子ジャーナルの公開に伴い審議を終了とし閉会とした。

・投稿規程の改正

一般社団法人への移行にともない編集委員の改変があり、新和文誌編集委員長から投稿規程の見直しについて要望が出され、改正を行った。

・電子投稿システムの更新

2004年から導入している電子投稿システムをリニューアルし機能を改善した。

2) 欧文誌について

欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として、引き続き刊行した（2012年9月から2013年3月までに3回刊行）。また、インパクトファクターは1.391であった。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規程に則って学会賞・奨励賞の公募を会誌第45巻10号に掲載した。

2) 小委員会活動

(1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（川西秀樹委員長）（平成25年1月25日開催）

① 日本臨床工学技士会、日本医療器材工業会人工腎臓部会の協力を得て「ISO対策ワーキンググループ」を継続し、本邦の見解をISO基準へ反映させるべく活動を行った。

② 新たな「血液浄化器機能分類」を作成し理事会により承認を受けた。今後、学会誌に発表する。

③ 昨年発刊した「委員会報告：エンドトキシン阻止フィルタ管理基準」の英文化を行い、Therapeutic Apheresis and Dialysis に投稿した。

④ 血液浄化の機能・効率に関するエビデンスを収集し、学術委員会・ガイドライン作成小委員会の「血液透析ガイドライン作成ワーキンググループ透析処方」へ協力した。

(2) ガイドライン作成小委員会（政金生人委員長）（平成25年2月1日開催）

本学会のガイドライン・診療ガイドについて、目的、方針、作成手順を明確化し、今後のガイドラインあるいは診療ガイドの作成方針に関する試案をまとめるべく活動を開始した。

① 血液透析療法ガイドライン（渡邊有三グループ長）：

「血液透析処方ガイドライン」G（平成24年9月28日開催、平成25年1月25日開催）

ガイドライン案を作成した。ホームページにアップしたのち公聴会を開催し、本年度中の完成を目指す。

「血液透析導入ガイドライン」作成G

（平成24年9月29日開催、平成24年11月25日開催、平成25年3月18日開催）

現在、ガイドライン案の作成中である。

「慢性血液透析療法の非導入と継続中止に関する提言」作成 G（平成 25 年 2 月 6 日開催）

日本透析医学会雑誌に「慢性血液透析療法の導入と終末期患者に対する見合わせに関する提言（案）」を発表し、会員の意見を求めた。

② CKD-MBD ガイドライン（深川雅史グループ長）：

社団法人日本透析医学会「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン Clinical Practice Guideline for CKD-MBD 透析会誌 45 (4)：301～356, 2012」を掲載した。Therapeutic Apheresis and Dialysis に発表すべく英文化をほぼ完了しており、投稿中である。

③ バスキュラーアクセスガイドライン改訂（久木田和丘グループ長）：

本ガイドラインの英文化も終了しており、Therapeutic Apheresis and Dialysis 発表をもって活動を終了とする。

④ 血液透析患者の糖尿病治療ガイド（中尾俊之グループ長）：（平成 24 年 9 月 22 日開催）

本診療ガイドを 2013 年透析医学会誌 46 巻 3 号に発表した。

⑤ 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦グループ長）：（平成 25 年 2 月 1 日開催）

「成人の維持透析患者に対する食事療法基準」の作成に關しての活動を開始した。

⑥ 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループ（山本裕康グループ長）：（平成 24 年 11 月 30 日開催，平成 25 年 2 月 22 日開催）

慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループを山本裕康グループ長を中心に委員を選定し、改訂作業を開始した。

本ガイドラインではエビデンスレベル評価委員会も設定した。

(3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（伊丹儀友委員長）：

対象を医師とコメディカルにわけ、特にコメディカルについて今後の透析医療の見通しを探る中から、研究の方向性を指し示す定期的な検討会議を設定する。透析医療に従事するコメディカルに、学会等を通じた統一的なプログラムのスケジュールを立案・提言する。

(4) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）：

コメディカルスタッフ研究助成基金運営規程に基づき、研究助成金の申請について、会誌 45 巻 10 号に掲載し、研究助成金の対象者の選定を行った。

今年度は以下の 2 名への助成が決定した。（敬称略）

① 米木 慶（北里大学大学院医療系研究科・理学療法士）

「維持血液透析患者の骨代謝と身体活動量の関連について」

② 小林光子（三菱京都病院腎透析センター・看護師）

「慢性血液透析患者の水管理指導プログラムの開発—口渴に対する対処行動の実態からの検討—」

また、日本透析医学会コメディカルスタッフ研究助成基金運営規程の一部を改訂した。

(5) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

血液浄化に関連する新技術に關しての知識・情報収集等を他学会と協力して行い、未来の腎代替療法開発、研究活動を行うことを目的として組織され、山下委員長のもと委員を選定し、活動を開始した。

5. 統計調査委員会

1) 2011 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に關するアンケート調査（2011 年 12 月 31 日現在）の内容の詳細を CD 化し 4,800 部作成して、施設会員などに配布した。またホームページの会員専用ページに掲載した。

2) 2013 年 1 月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2011 年 12 月 31 日現在）」を掲載した。

- 3) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2010 年 12 月 31 日現在)」の英語版を作成し、本学会欧文誌 (Therapeutic Apheresis and Dialysis 12 月号) に An Overview of Regular Dialysis Treatment in Japan (As of 31 December 2010) として掲載した。
- 4) 新たに契約した委託業者の協力を得て、新しい年末統計調査アンケート方法を作成した。
- 5) 2012 年 12 月 31 日時点での慢性透析療法の現況について、透析医療内容の変遷や実態などを把握するためのアンケートを作成し、4,267 の透析施設に送付し、2013 年 3 月現在順調に回収作業が行われている。
- 6) 会員、各委員会などから統計調査委員会に要望のあった調査・解析や統計調査委員会の委員会研究に加え、2012 年度に 13 件の応募があった公募研究の内、2 件を採択した。
- 7) 2011 年度に採択された 4 件の公募研究は順調に進行し、日本透析医学会を始め、国際学会などで発表した。
- 8) 疫学研究に関する倫理指針の趣旨に沿って、調査結果をさらに公開する。

- ・統計解析小委員会

膨大な統計調査データの解析実務を行い、ガイドラインなどの作成、透析医会のグランドデザイン作成のための基礎資料や論文を創成した。わが国の透析医療の向上を目指し、公募研究を支援するとともに、委員会研究を行い、論文化した。

- ・腹膜透析 (PD) レジストリー小委員会

日本腹膜透析医学会と合同で行う本小委員会は、2009 年末調査から開始したレジストリー項目に加え、2011 年末調査では詳細な PD 関連調査項目を追加し、その結果を、2011 年「わが国の慢性透析療法の現況」の図説や CD 版に掲載するとともに、第 18 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会にて報告した。

- ・地域協力小委員会

2012 年に新規に開院・閉院した施設を調査し、2012 年末アンケート調査送付施設を決定した。2012 年末調査回収のため、2013 年 3 月現在各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行っている。

- ・データベース管理ワーキンググループ

新たな委託業者と共に、過去からの膨大なデータベースの整備を継続するとともに、毎年加わる新規データを一元管理すべく努めている。

6. 専門医制度委員会

- 1) 専門医試験受験資格として、基本学会の専門医等の取得を条件とするため、基本学会の専門医等の資格を有していない会員のために、専門医試験受験のための特例受験緩和措置の申請を平成 25 年 12 月末まで実施するにあたり、平成 24 年 11 月発行の日本透析医学会誌第 45 巻 11 号から「専門医受験の特例緩和措置について」として掲載し、平成 25 年 3 月発行の第 46 巻 3 号まで継続して掲載した。
また、本学会ホームページに『お知らせ』として掲載し、周知徹底を計った。
第 57 回(社)日本透析医学会学術集会・総会委員会報告としてこの特例受験緩和措置を学会誌第 45 巻 9 号に掲載し、専門医・指導医認定小委員会と専門医試験小委員会の委員へ別冊を作成し配布した。
- 2) 従来から専門医制度委員会にあった、専門医認定委員会、専門医試験委員会、指導医認定委員会、施設認定委員会の役割を見直し、カリキュラム小委員会、専門医・指導医認定小委員会、専門医試験小委員会、施設認定小委員会の 4 小委員会に組織を改編した。
- 3) 透析専門医として日本専門医制評価・認定機構から認定を受けることが最重要であり、機構から検討要請が迫られている事項について、各小委員会と専門医制度委員会で検討し、早急に整備しなければならない。機構は、基本領域学会の専門医制度整備指針を提示し、基本領域以外の学会の専門医制度整備に関しても基本的には基本領域学会とほぼ同様の内容での整備が必要になるとしている。
以上を踏まえて、専門医制度委員会及び各小委員会は各項目の整備に 3 月までに着手した。

- ・ 専門医制度委員会
 機構の専門医制度整備指針に沿った規則細則の整備
 研修方略（全体像）の整備
 研修プログラムの整備
 - ・ カリキュラム小委員会の検討課題
 研修カリキュラムの整備
 指導マニュアルの整備（専門医試験問題解説集からの改変）
 - ・ 専門医・指導医認定小委員会の検討課題
 基本領域専門医以外の研修期間を3年間としており、本学会の研修期間は認定施設1年、教育関連施設3年となっている点の整備
 専門医と指導医認定基準の整備
 専門医の適正数を示すデータの整備
 専門医の優位性を示すデータの整備
 国民に対して、透析専門医がよくわかる説明文の整備
 - ・ 専門医試験小委員会
 受験のための提出書類の整備（経験症例記録など）
 無作為抽出による実地調査のための監査体制の整備
 筆記試験難易度調整の整備
 口頭試験の調整基準の整備
 採点結果の開示
 試験問題作成マニュアルの作成
 - ・ 施設認定小委員会
 機構は、指導体制を指導責任者と指導医とした基幹研修施設で専門医を取得し、基幹研修施設では十分に研修できない部分を補うために基幹研修施設の指導責任者が承認した施設で、主たる研修施設とその施設に連携し研修プログラムに沿って研修を行える関連研修施設での研修も可能としているが、本学会は認定施設と教育関連施設があり、専門医が1名の教育関連施設の研修プログラム単独で専門医の取得ができる点の整備
 施設認定基準の整備
- 4) 専門医制度における「倫理の問題」についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。
 - 5) カリキュラム小委員会は、旧カリキュラム小委員会委員長が中心となり作成したセルフトレーニング問題をセルフトレーニング問題作成編集会議でブラッシュアップを行った。
 - 6) 2012年度専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、合否を決定した。2010年から優良な試験問題1,000題のプールを目指して、新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化中である。
 - 7) 生涯教育プログラムは、第81回北海道透析療法学会、第39回東北腎不全研究会、第36回群馬県透析懇話会、第41回東京透析懇話会、第11回福井県血液浄化談話会、第86回東海透析研究会、第33回京都透析医会、第21回中国腎不全研究会、第46回四国透析療法研究会、第29回九州CAPD検討会、第45回九州人工透析研究会の11地区の地方学術集会、及び専門医制度委員会が認めた第63回三多摩腎疾患治療医会、第54回新潟透析懇話会、第40回静岡県腎不全研究会、第32回兵庫県透析研究会、第52回山口県透析研究会の5地方学術集会も適正に施行された。
 - 8) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新の公示・受付等については下記の通りである。

① 第23回専門医認定

申請受付会告	2012年3月～5月
申請書類受付	2012年6月1日～6月30日
申請者数	248名
書類審査不適格者数	1名
受験者数	247名
専門医認定試験（客観式筆答試験・口頭試問試験）10月21日（日）	
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	247名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	0名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	32名
客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数	215名（合格率86.7%）
東京会場 都市センターホテル	
受験者数	215名/248名（86.7%）

【専門医更新総数】

更新対象者数	805名
更新申請者数	786名
更新適格者数	786名（合格率100%）

第3回専門医認定（1993年度認定・1998年度更新・2003年度更新・2008年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2012年8月～10月
更新申請書類受付	2012年11月1日～11月30日
更新対象者数	311名
更新申請者数	300名
更新適格者数	300名

第8回専門医認定（1997年度認定・2003年度更新・2008年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2012年8月～10月
更新申請書類受付	2012年11月1日～11月30日
更新対象者数	128名
更新申請者数	127名
更新適格者数	127名

第13回専門医認定（2002年度認定・2008年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2012年8月～10月
更新申請書類受付	2012年11月1日～11月30日
更新対象者数	168名
更新申請者数	166名
更新適格者数	166名

第18回専門医認定（2008年度認定）更新認定

更新申請受付の会告	2012年8月～10月
更新申請書類受付	2012年11月1日～11月30日
更新対象者数	198名
更新申請者数	193名
更新適格者数	193名

② 第23回指導医認定

申請受付の会告	2012年10月～12月
---------	--------------

申請書類受付	2012年1月6日～2013年1月31日
申請者数	102名（申請取り消し2名）
適格者数	95名（合格率93.1%）

【指導医更新総数】

更新対象者数	267名
更新申請者数	239名
更新適格者数	239名（合格率100%）

第3回指導医認定（1993年度認定・1998年度更新・2003年度更新・2008年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2012年9月～11月
更新申請書類受付	2012年12月1日～12月28日
更新対象者数	114名
更新申請者数	102名
更新適格者数	102名

第7回指導医認定（1997年度認定・2003年度更新・2008年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2012年9月～11月
更新申請書類受付	2012年12月1日～12月28日
更新対象者数	38名
更新申請者数	32名
更新適格者数	32名

第13回指導医認定（2003年度認定・2008年度更新）更新認定

更新申請受付の会告	2012年9月～11月
更新申請書類受付	2012年12月1日～12月28日
更新対象者数	75名
更新申請者数	69名
更新適格者数	69名

第18回指導医認定（2008年度認定）更新認定

更新申請受付の会告	2012年9月～11月
更新申請書類受付	2012年12月1日～12月28日
更新対象者数	40名
更新申請者数	36名
更新適格者数	36名

③ 第22回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告	2012年4月～6月	
申請書類受付	2012年7月15日～8月15日	
申請施設数	認定施設	19施設
	教育関連施設	66施設
適格施設数	認定施設	18施設（合格率94.7%）
	教育関連施設	66施設（合格率100%）

【認定施設更新総数】

更新対象者数	145施設
認定施設数	71施設
教育関連施設数	74施設
更新申請者数	119施設

認定施設数	65 施設
教育関連施設数	54 施設
更新適格者数	114 施設
認定施設数	62 施設 (合格率 95.4%)
教育関連施設数	52 施設 (合格率 96.3%)

第4回認定施設・教育関連施設認定 (1995年度認定・1998年度更新・2003年度更新・2008年度更新) 更新認定

更新申請受付の会告	2012年4月～6月	
更新申請書類受付	2012年7月15日～8月15日	
更新対象施設数	認定施設	27 施設
	教育関連施設	43 施設
更新申請施設数	認定施設	26 施設
	教育関連施設	35 施設
更新適格施設数	認定施設	26 施設
	教育関連施設	34 施設

第7回認定施設・教育関連施設認定 (1997年度認定・2003年度更新・2008年度更新) 更新認定

更新申請受付の会告	2012年4月～6月	
更新申請書類受付	2012年7月15日～8月15日	
更新対象施設数	認定施設	9 施設
	教育関連施設	5 施設
更新申請施設数	認定施設	7 施設
	教育関連施設	1 施設
更新適格施設数	認定施設	7 施設
	教育関連施設	1 施設

第12回認定施設・教育関連施設認定 (2002年度認定・2008年度更新) 更新認定

更新申請受付の会告	2012年4月～6月	
更新申請書類受付	2012年7月15日～8月15日	
更新対象施設数	認定施設	15 施設
	教育関連施設	15 施設
更新申請施設数	認定施設	14 施設
	教育関連施設	11 施設
更新適格施設数	認定施設	14 施設
	教育関連施設	10 施設

第17回認定施設・教育関連施設認定 (2008年度認定) 更新認定

更新申請受付の会告	2012年4月～6月	
更新申請書類受付	2012年7月15日～8月15日	
更新対象施設数	認定施設	20 施設
	教育関連施設	11 施設
更新申請施設数	認定施設	18 施設
	教育関連施設	7 施設
更新適格施設数	認定施設	15 施設
	教育関連施設	7 施設

④ 各小委員会の認定状況 (2013年4月1日現在で記載)

専門医数	5,025 名
------	---------

指導医数	1,806 名
認定施設数	446 施設
教育関連施設数	592 施設
	施設認定数 計 1,038 施設

7. 国際学術交流委員会

- (1) 第 58 回日本透析医学会 会長企画による海外からの招聘講演, シンポジウム, アジアの夕べの準備状況の確認.

#1 Robin A. J. Eady & Ann Eady (St John's Institute of Dermatology, UK)

[Fifty years of renal replacement therapy : personal recollections of a kidney patient]

座長 : 井関邦敏 6月22日(土) 10:30~11:30

#2 Peter Stenvinkel (Karolinska University Hospital at Huddinge, Karolinska Institutet Stockholm, Sweden)

[Chronic kidney disease : a clinical model of premature aging]

座長 : 西澤良記 6月23日(日) 10:30~11:30

#3 Kamyar Kalantar-Zadeh (University of California Irvine School of Medicine, UC Irvine Medical Center, Division of Nephrology and Hypertension, USA)

[Update on Obesity Paradox, Reverse Epidemiology and Protein-Energy Wasting in CKD]

座長 : 秋澤忠男 6月21日(金) 13:30~14:30

#4 ISY1. Special Session on Dialysis Therapy in Asian Countries

アジアの夕べ : 各国の透析事情

座長 平和伸仁, Phillip Kam-Tao Li 6月21日(金) 15:30~18:00

#5 ISY2. CKD-MBD International Symposium : MBD and prognosis

座長 : 深川雅史, 濱野高行 6月22日(土) 8:30~11:00

(KIのサプリメントを出す予定)

- (2) 第 58 回日本透析医学会国際学術交流委員会セッションの準備

#1 Treatment strategy for EDKD patients : Conservative or Dialysis?

座長 : 川西秀樹, 湯澤由紀夫 6月21日(金) 13:30~15:30

#2 Dialysis patients and malignancy : Do they have higher incidence?

座長 : 海津嘉蔵, 塚本雄介 6月22日(土) 14:00~16:00

#3 学会・委員会企画 6題 ミャンマー, インド, 台湾

座長 山縣邦弘, 成田一衛, 兵藤 透, Khin Maung Maung Than

6月21日(金) 10:30~11:40

以上の開催に向けての準備状況, 必要事項の確認を行った.

- (3) JSDT 国際学術交流委員会としての活動方針として

① 日本透析医学会の国際的な地位の向上を目指して

EDTA, ISN, ASN に対して JSDT との連携を模索する. その中心的役割として当委員会が貢献できると考えられる.

② 国内開催の透析療法に関する国際学会への積極的協力の以上

の2つの方針が確認された.

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため、平成24年度は選出を行わなかった。

9. 保険委員会

平成26年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の腎・血液浄化関連委員会、日本腎臓学会、日本アフレスシス学会、日本急性血液浄化学会、日本小児腎臓病学会、日本腹膜透析医学会並びに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行った。

「透析液水質確保に関する研修」を専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施した。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

(1) 平成25年3月7日、平成24年度第1回一般社団法人日本透析医学会倫理委員会を開催して、透析医学会として対応すべき、医療機関債を用いた出資法違反事件に関わる本学会施設会員の処分について審議した。

2) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属）の提供依頼があり、

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）

7件申請があり、いずれも承認した。

(2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（第8条第4項関係）

2件申請があり、いずれも承認した。

11. 腎不全総合対策委員会

1) 腎移植の普及に努めた。

(1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会と共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行った。

(2) 日本移植学会、日本臨床腎移植学会、日本小児腎臓病学会と協力し、日本腎臓学会の「腎移植研修プログラム（教育セミナー、研修病院での研修）」へ会員の参加を積極的に呼びかける予定であったが、実質的には開催されず会員の参加はなかった。

(3) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な公開を積極的に進めた。2012年6月第57回日本透析医学会学術集会において委員会報告として行った、「ESRD（CKD5）の総合対策」を論文化し、日本透析医学会、日本移植学会、日本臨床移植学会、日本小児腎臓学会、日本腎臓学会の各学会理事会の同意を得て、各学会誌に掲載する方向で継続して検討を進めた。腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、今年度も末期腎不全統計、preemptive腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法の現況を継続的に集約し報告する筋道をたてた。さらにその成果を学会Web、商業誌、monographなどで公開し、腎不全治療の啓発に努めた。

(4) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかった。また生体腎移植の実態について啓発を行った。

(5) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」「病腎移植」

の問題についても積極的な啓発活動を行った。

2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じた。

(1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、当委員会傘下のCKD対策小委員会、腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に、円滑なレジストレーション、および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を継続して強化した。

(2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。

(3) 厚生労働省が支援し、現在日本腎臓学会で行われている、CKD重症予防対策についても継続して協力した。

3) 腹膜透析の普及に努めた。

(1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかけた。

(2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行った。

4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で、前年度改訂された「末期腎不全治療選択」小冊子とDVDの配布と普及に努めた。

12. 危機管理委員会

1) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関連する緊急安全情報の中で、透析医療にかかわるものについて、日本透析医学会ホームページに随時掲載し会員への周知を図った。

2) 日本透析医学会の理事、統計調査委員会地域協力員は日本透析医学会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と連携し活動した。

3) 日本透析医学会が中心になって平成25年度に行う予定になっている「透析医療事故の実態に関する全国調査」について、協力体制を確認し具体的な協力体制を策定中である。

・東日本大震災ワーキンググループは、東日本大震災において透析医療の現場で何が起こったのかを明らかにし、今後予測されている大規模災害における透析医療のフレームワークに関する提言を行うために、報告書作成を開始した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき、利益相反状態に関連した以下の事項を実施した。

1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示

2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出

3) 本学会の役員（理事長、理事、監事）、総会会長、委員会委員長、特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出

なお、会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく、それに伴う当委員会の開催はなかった。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	水口 潤	平成24年11月18日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	有
常任理事	川西 秀樹	同	非常勤	なし	有
同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	有
同	平方 秀樹	同	非常勤	なし	無
理事	安藤 亮一	同	非常勤	なし	有
同	岡田 一義	同	非常勤	なし	無
同	衣笠 えり子	同	非常勤	なし	有
同	重松 隆	同	非常勤	なし	無
同	椿原 美治	同	非常勤	なし	無
同	友 雅司	同	非常勤	なし	有
同	中西 健	同	非常勤	なし	有
同	中元 秀友	同	非常勤	なし	無
同	中山 昌明	同	非常勤	なし	無
同	新田 孝作	同	非常勤	なし	有
同	深川 雅史	同	非常勤	なし	無
同	政金 生人	同	非常勤	なし	無
同	峰島 三千男	同	非常勤	なし	有
同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	有
同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	無
同	渡邊 有三	同	非常勤	なし	有

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	秋葉 隆	平成24年11月18日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	有
同	土谷 健	同	非常勤	なし	有
同	仲谷 達也	同	非常勤	なし	有

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	平成24年9月3日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	秋葉隆	同	非常勤	なし	
3	同	浅野友彦	同	非常勤	なし	
4	同	阿部貴弥	同	非常勤	なし	
5	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	有菌健二	同	非常勤	なし	
7	同	有村徹朗	同	非常勤	なし	
8	同	安藤稔	同	非常勤	なし	
9	同	安藤康宏	同	非常勤	なし	
10	同	安藤亮一	同	非常勤	なし	
11	同	家原典之	同	非常勤	なし	
12	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
13	同	池田潔	同	非常勤	なし	
14	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
15	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
16	同	石田陽一	同	非常勤	なし	
17	同	石光俊彦	同	非常勤	なし	
18	同	石村栄治	同	非常勤	なし	
19	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
20	同	井関邦敏	同	非常勤	なし	
21	同	板垣信生	同	非常勤	なし	
22	同	伊丹儀友	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
24	同	伊藤哲二	同	非常勤	なし	
25	同	伊東稔	同	非常勤	なし	
26	同	伊藤恭彦	同	非常勤	なし	
27	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
28	同	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
29	同	井上徹	同	非常勤	なし	
30	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
31	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
32	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
33	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
34	同	内田信一	同	非常勤	なし	
35	同	乳原善文	同	非常勤	なし	
36	同	大城吉則	同	非常勤	なし	
37	同	大園誠一郎	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大 家 基 嗣	同	非常勤	なし	
39	同	岡 田 一 義	同	非常勤	なし	
40	同	緒 方 浩 顕	同	非常勤	なし	
41	同	岡 田 浩 一	同	非常勤	なし	
42	同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
43	同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	
44	同	荻 原 雅 彦	同	非常勤	なし	
45	同	奥 田 誠 也	同	非常勤	なし	
46	同	奥 野 仙 二	同	非常勤	なし	
47	同	小 倉 誠	同	非常勤	なし	
48	同	小 田 寛	同	非常勤	なし	
49	同	小 瀧 慶 長	同	非常勤	なし	
50	同	角 田 隆 俊	同	非常勤	なし	
51	同	柏 原 昇	同	非常勤	なし	
52	同	春 日 弘 毅	同	非常勤	なし	
53	同	加 藤 明 彦	同	非常勤	なし	
54	同	金 井 英 俊	同	非常勤	なし	
55	同	金 澤 良 枝	同	非常勤	なし	
56	同	金 田 幸 司	同	非常勤	なし	
57	同	鎌 田 貢 壽	同	非常勤	なし	
58	同	川 西 秀 樹	同	非常勤	なし	
59	同	菅 政 治	同	非常勤	なし	
60	同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	
61	同	北 村 健 一 郎	同	非常勤	なし	
62	同	北 村 真	同	非常勤	なし	
63	同	鬼 無 信	同	非常勤	なし	
64	同	衣 笠 え り 子	同	非常勤	なし	
65	同	木 野 恭 子	同	非常勤	なし	
66	同	木 全 直 樹	同	非常勤	なし	
67	同	草 野 英 二	同	非常勤	なし	
68	同	久 野 勉	同	非常勤	なし	
69	同	熊 谷 裕 生	同	非常勤	なし	
70	同	桑 原 道 雄	同	非常勤	なし	
71	同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	
72	同	小 林 修 三	同	非常勤	なし	
73	同	小 松 康 宏	同	非常勤	なし	
74	同	小 薮 助 成	同	非常勤	なし	
75	同	今 裕 史	同	非常勤	なし	
76	同	今 田 恒 夫	同	非常勤	なし	
77	同	齋 藤 修	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	斎藤知栄	同	非常勤	なし	
79	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
80	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	
81	同	坂本尚登	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤滋	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤隆	同	非常勤	なし	
84	同	佐藤壽伸	同	非常勤	なし	
85	同	佐藤正嗣	同	非常勤	なし	
86	同	三馬省二	同	非常勤	なし	
87	同	重松隆	同	非常勤	なし	
88	同	宍戸寛治	同	非常勤	なし	
89	同	篠田俊雄	同	非常勤	なし	
90	同	柴垣有吾	同	非常勤	なし	
91	同	柴原伸久	同	非常勤	なし	
92	同	柴原宏	同	非常勤	なし	
93	同	島田久基	同	非常勤	なし	
94	同	杉本俊門	同	非常勤	なし	
95	同	杉山齐	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木寿英	同	非常勤	なし	
97	同	清野耕治	同	非常勤	なし	
98	同	関田憲一	同	非常勤	なし	
99	同	副島一晃	同	非常勤	なし	
100	同	竹中恒夫	同	非常勤	なし	
101	同	竹本文美	同	非常勤	なし	
102	同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
103	同	田邊一成	同	非常勤	なし	
104	同	田畑勉	同	非常勤	なし	
105	同	田村禎一	同	非常勤	なし	
106	同	田村雅仁	同	非常勤	なし	
107	同	塚本雄介	同	非常勤	なし	
108	同	土田健司	同	非常勤	なし	
109	同	土谷健	同	非常勤	なし	
110	同	椿原美治	同	非常勤	なし	
111	同	鶴田良成	同	非常勤	なし	
112	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
113	同	富永芳博	同	非常勤	なし	
114	同	友雅司	同	非常勤	なし	
115	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
116	同	中井滋	同	非常勤	なし	
117	同	中岡明久	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	中里優一	同	非常勤	なし	
119	同	長沢正樹	同	非常勤	なし	
120	同	中島一朗	同	非常勤	なし	
121	同	中島貞男	同	非常勤	なし	
122	同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
123	同	中西健	同	非常勤	なし	
124	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
125	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
126	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
127	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
128	同	中山昌明	同	非常勤	なし	
129	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
130	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
131	同	西一彦	同	非常勤	なし	
132	同	西川慶一郎	同	非常勤	なし	
133	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
134	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
135	同	新田豊	同	非常勤	なし	
136	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
137	同	野々口博史	同	非常勤	なし	
138	同	堅村信介	同	非常勤	なし	
139	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
140	同	橋本寛文	同	非常勤	なし	
141	同	長谷弘記	同	非常勤	なし	
142	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
143	同	長谷川廣文	同	非常勤	なし	
144	同	服部元史	同	非常勤	なし	
145	同	花岡一成	同	非常勤	なし	
146	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
147	同	浜田弘巳	同	非常勤	なし	
148	同	林晃一	同	非常勤	なし	
149	同	林晃正	同	非常勤	なし	
150	同	林松彦	同	非常勤	なし	
151	同	速見浩士	同	非常勤	なし	
152	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
153	同	樋口千恵子	同	非常勤	なし	
154	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
155	同	平方秀樹	同	非常勤	なし	
156	同	平田純生	同	非常勤	なし	
157	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
159	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
160	同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
161	同	藤森明	同	非常勤	なし	
162	同	渕之上昌平	同	非常勤	なし	
163	同	古井秀典	同	非常勤	なし	
164	同	古巢朗	同	非常勤	なし	
165	同	古藺勉	同	非常勤	なし	
166	同	古谷隆一	同	非常勤	なし	
167	同	洞和彦	同	非常勤	なし	
168	同	保利敬	同	非常勤	なし	
169	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
170	同	前野七門	同	非常勤	なし	
171	同	前波輝彦	同	非常勤	なし	
172	同	政金生人	同	非常勤	なし	
173	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
174	同	正木浩哉	同	非常勤	なし	
175	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
176	同	松下和通	同	非常勤	なし	
177	同	松田昭彦	同	非常勤	なし	
178	同	松橋尚生	同	非常勤	なし	
179	同	松本博	同	非常勤	なし	
180	同	丸林誠二	同	非常勤	なし	
181	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
182	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
183	同	水口潤	同	非常勤	なし	
184	同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
185	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
186	同	宮形滋	同	非常勤	なし	
187	同	三輪真幹	同	非常勤	なし	
188	同	武藤重明	同	非常勤	なし	
189	同	村上円人	同	非常勤	なし	
190	同	室谷典義	同	非常勤	なし	
191	同	望月隆弘	同	非常勤	なし	
192	同	森典子	同	非常勤	なし	
193	同	森石みさき	同	非常勤	なし	
194	同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
195	同	八城正知	同	非常勤	なし	
196	同	安永親生	同	非常勤	なし	
197	同	矢内充	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
199	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
200	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
201	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
202	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
203	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
204	同	湯浅 健司	同	非常勤	なし	
205	同	湯澤 由紀夫	同	非常勤	なし	
206	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
207	同	横山 建二	同	非常勤	なし	
208	同	横山 仁	同	非常勤	なし	
209	同	横山 雅好	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 篤博	同	非常勤	なし	
211	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
212	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
213	同	吉矢 邦彦	同	非常勤	なし	
214	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
215	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
216	同	和田 晃	同	非常勤	なし	
217	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	
218	同	渡邊 有三	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由	備考
秋澤 忠男	理事長	平成 24 年 11 月 18 日	任期満了による	
草野 英二	常任理事	同	同	
秋葉 隆	理事	同	同	
井関 邦敏	同	同	同	
中尾 俊之	同	同	同	
久木田 和丘	同	同	同	
頼岡 徳在	監事	同	同	
沼田 明	同	同	同	

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 25 年 2 月 22 日 平成 25 年 3 月 8 日	4. 第 7 回認定施設・教育関連施設の更新認定について 5. 第 12 回認定施設・教育関連施設の更新認定について 6. 第 17 回認定施設・教育関連施設の更新認定について 7. 2012 年度施設認定 8. 専門医制度規則第 35 条施行細則について 1. 2012 年度専門医認定更新について 2. 2012 年度指導医認定新規申請・更新について 3. 2012 年認定施設・教育関連施設審査結果について 4. 委員会推薦による生涯教育プログラム 5 集会の選定について 5. 2013 年度事業計画（案）について 6. 研修カリキュラム 指導マニュアル作成 WG 報告について 7. 専門医制度規則及び規則施行細則の一部改訂（案）について	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・国際学術交流委員会 平成 25 年 2 月 22 日	1. 第 58 回学術集会委員会企画進捗状況報告について 2. 2014 年国際学術交流委員会セッション企画案について 3. JSDT 国際学術交流委員会としての活動方針について 4. 日本の透析医療成績の世界への情報発信について	報告・承認 継続検討 報告・承認 継続検討
・評議員選出委員会	「該 当 な し」	
・保険委員会 平成 24 年 10 月 19 日 平成 25 年 1 月 18 日	1. 6 学会要望書の提出について 2. 内保連の見解及び提案書のスケジュールについて 3. 透析医学会会員よりの要望事項について 4. 腎臓学会よりの要望事項について 5. アフェレシス学会よりの要望事項について 6. 急性血液浄化学会よりの要望事項について 7. 小児腎臓病学会よりの要望事項について 8. 各学会の要望の取り扱いについて 9. 日臨工の方針について 1. 平成 26 年度診療報酬提案書について 2. 各学会の一次提出の確認について 3. 腎臓リハビリ学会，腎臓学会の提案について 4. 提案書の提出スケジュールについて 5. 日臨工の方針について 6. 透析医会主体の医療事故調査の実施について	全会一致承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 継続検討 報告・承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 平成 25 年 3 月 7 日	1. 日本透析医学会施設会員の処遇について	全会一致承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会	「該 当 な し」	
・研究者の利益相反等 検討委員会	「該 当 な し」	

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区分	氏名	兼職先法人等	兼職の内容	関係
理事長	水口 潤	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	副理事長	一部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理事	一部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理事	一部
		公益財団法人 とくしま移植医療推進財団	理事	
常任理事	川西 秀樹	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理事長	一部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理事	一部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理事	一部
	武本 佳昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理事	一部
特定非営利活動法人 日本アクセス研究会		監事	一部	
理事	安藤 亮一	一般社団法人 三多摩腎疾患治療医会	副理事長	
	衣笠 えり子	公益財団法人 かながわ健康財団	理事	
	友 雅司	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理事	一部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理事	
	中西 健	一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理事	一部
	新田 孝作	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	副理事長	
	峰島 三千男	一般社団法人 日本アフェレシス学会	理事	一部
	山縣 邦弘	一般社団法人 日本腎臓学会	理事	
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理事	一部
		財団法人 いばらき腎バンク	理事	
	特定非営利活動法人 筑波腎臓内科医療育成支援機構	理事長		
	渡邊 有三	公益財団法人 愛知腎臓財団	常務理事	ほぼ同一
監事	秋葉 隆	一般社団法人 日本人工臓器学会	理事	一部
		公益財団法人 日本透析医会	理事	一部
		一般社団法人 日本アフェレシス学会	監事	一部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理事	一部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理事	一部
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理事	一部
	土谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	
	仲谷 達也	一般社団法人 日本泌尿器科学会	常任理事	
公益財団法人 大阪腎臓バンク		常任理事		

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。